

きんぱく



今号のテーマ

金箔技術振興研究所
金沢市立安江金箔工芸館



載金
十一面観音像



加賀象嵌
飾り壺「金銀の譜」



金箔の魅力を味わい尽くす
日本で唯一の
金箔の博物館

金沢市東山エリアに新しい名所が誕生した。
金沢市立安江金箔工芸館の正面ウィンドウに設置された金箔オブジェだ。
金箔を英語で「GOLD LEAF」と呼ぶことから発想したオブジェは、キラキラと輝く金色の葉が印象的な木立で、生命力ゆたかな樹木風に仕上げられている。
これを機会に、日本で唯一の金箔の博物館・金沢市立安江金箔工芸館を訪れてみては？

今号のテーマ
**金沢市立
安江金箔工芸館**

移転6年目のリニューアル

GOLD LEAFの木の オブジェがお目見え

今年3月17日、金沢市立安江金箔工芸館1階の通りに面したショーウィンドウがリニューアルした。金箔を使ったオブジェが設置されたのだ。木立をモチーフにしたオブジェは、二重構造のメッシュの幹にキラキラと輝く金・銀箔の木の葉が人目を引く。

デザインを担当したのは金沢美術工芸大学のデザイン科環境デザイン専攻の学生4人。

これは、金沢市立安江金箔工芸館と金箔技術振興研究所、石川県箔商工業協同組合、金沢美術工芸大学が共同で進めてきたプロジェクトで、スタートは設置の約1年前。この間に、ミーティングや会議、デザイン試作を重ねて作り上げた結晶といえる。

デザインを担当した学生らは「金箔の英語表記 GOLD LEAF から豪華さと繊細さを兼ね備えた生命樹をイメージし、厚さ1万分の1ミリメートルの金箔に込められた先人たちの熱い思いを黄金色に輝く幹と葉をバランス良く配置し生命力あふれる空間を演出した」と製作の意図を語った。工芸館や金箔の工房を訪ねて職人の仕事に触れ、東山のまちを歩くことでイメージを膨らませていったと言う。



感性みずみずしい大学生

金箔を通して 金沢の魅力を実感

「金沢で生まれ育ったものの、光に透かした金箔があんなにきれいに青く輝くことも知らなかった。国内で作られる金箔のほとんどが金沢産だということを社会科の授業で習って知っていた程度だった」そう話すのは長谷川晶子さん。金箔がぐっと身近に感じられるようになったとか。

愛知県出身の宮本夏帆さんは「大学生になって住み始めた金沢は、古いものと新しいものが違和感なく共存しているまちだ」という印象を持っていた。金箔も同様に、古くから受

け継がれながら新しい時代にも自然に溶け込んでいるのが素敵だと感じる」と印象を口にした。

これまで意識することのなかった素材を扱うことや、伝統を背負い、思いを持って仕事に臨む職人と接したことは、将来自分の仕事にも役立ちそうだと嬉しそうな笑みをこぼす彼女たちはオブジェに負けないほどに輝いていた。

金沢市立安江金箔工芸館とは

日本で唯一の金箔の博物館は 金箔職人の熱意から生まれた

オブジェが設置された金沢市立安江金箔工芸館は、金箔職人であった安江孝明氏(1898~1997)が、「金箔職人の誇りとその証」を後世に残したいと考え、私財を投じて昭和49年に金沢市北安江で設立したことが始まり。金箔製造のための道具や安江氏が収集した美術工芸品を展示していたが、その後金沢市に寄贈された。

施設の老朽化や来館者の利便性を考えて東山に移転したのは平成22年。東山は、江戸時代後期に箔の細工所が置かれた場所で、現在も多くの箔職人が住んでいる。

古くから箔と縁深い場所で、金沢市立安江金箔工芸館は町家の蔵をイメージした外観と、開放感あるホールが印象的なモダンな建物に生まれ変わった。館内のあちらこちらに配された金箔も印象的で、国内唯一の金箔の博物館として、近年は外国人の来館も増えている。

工芸館3階にある金箔技術振興研究所は、工芸館が東山に移転した際に新設され、金箔振興のために産地支援と研究コーディネート、商品開発コーディネート、アーカイブなどを目的として活動している。



金銀糸
装束 庵に草花文様唐織



飾箱
「かくや姫」

截金寶石箱「をしどり」



金沢市立安江金箔工芸館の魅力

職人が実際に使った道具から
美術工芸品までを幅広く収蔵



常設展示室は、金箔の製造工程を知ることができるエリア。実際に安江氏が使用していた箔製造の道具や箔打ち機などが並べられている。



道具の隅に小さく書き込まれた職人の銘のほか、道具のキズやすり減り、汚れなどがそのまま残っている展示品から箔製造のリアルさが感じられる。箔の製造工程については、映像コーナーで動画の視聴もできる。

他にも、クイズ形式で金箔や原料である金の性質を学ぶことができる「おもしろ箔物館」は科学的なアプローチからの出題と、重さや厚さ、感触などを体感できる実物資料が多く、子どもだけでなく大人も楽しめる金箔の雑学がいっぱいだ。

一方、企画展示室では館所蔵作品を中心とした金や金箔に関する企画展を年に4～5回開催している。展示替えは季節や行事に応じて行われるため、金箔の美しさ、職人や作家の技術だけでなく、金沢の四季や歴史文化までをふんだんに感じられる。

所蔵品は、金屏風にさまざまな情景をあらわした絵画をはじめ、漆工芸、金工、陶磁器、彫刻・人形、七宝・ガラス、金箔工芸品など幅広く、一巡りするだけでも金箔産業に打ち込んだ安江氏の献身をうかがい知ることができるなど、金沢市立安江金箔工芸館は他では見ることのできない魅力にあふれている。

画像 ©金沢市立安江金箔工芸館

金箔先生の知って得ゼミナール

竹紙から作る
箔打紙

前回のコラムでは、インドの箔打革、箔打ちに使われる羊の皮について話しました。今回はミャンマーの竹紙を紹介します。

ミャンマーでは、国中のいたる所に金箔で荘厳されたパゴダ(仏塔)が見られますが、その金箔の製造には竹紙が使われます。原料はミエン・ワーという細竹で、日本の竹のように中空ではなく中身が詰まっています。この竹は漉くための準備になんと三年かかります。すなわち、消石灰の液に漬けて三年、さらに三日間煮てようやく繊維がほぐれて柔らかくなるのです。和紙の原料となる楮や三桠や雁皮と大いに異なるところです。

抽出した繊維は、木槌で叩き、杵で突いて解きほぐします。杵で突く回数は三千回、ときに五千回になります。こうして繊維がペースト状になってようやく糞桁で漉けるようになりますが、均一な厚さに漉くにはやはり技術がいるようです。



漉いた下地紙の天日干し

糞桁から外して天日干した下地紙は、サンドペーパーにかけて所定の大きさに切断したあと、一枚ずつ銅製の台に乗せて「雌鹿の樹」と呼ぶ木で作った叩き棒で叩くのです。

棒にはエッジがつけられており、1時間ほど叩き続けると、半透明で光沢を帯びてきます。触るとザラザラだった表面はとても滑らかになります。電子顕微鏡で見ると、繊維が識別できないほど



細かく解きほぐされていることがわかります。これがミャンマーの箔打紙、シュエ・カ・サクです。実際に箔を打つときには、滑りをさらによくするために滑石の粉をふって使います。

下地紙を「雌鹿の樹」で叩く女性たち(床下には水が流れる)

ミャンマーの製箔は、箔打ちの前後にモン族の神に祈りを捧げたり、仕上げ打ちのことを「狩の終わり」と呼んだり、製紙の過程で鹿の角を使ったりと、インドに負けず劣らず民族色が豊かです。今でも手打ちなのはインドと同じですが、大きなハンマーを両手で持って立った姿勢から打ちおろすところが違います。何より打ち紙が、一方は動物性、他方は植物性と大いに違います。そしてミャンマーを起点に、タイ、ラオス、中国、韓国、そして日本と、東アジアの伝統的打ち紙は植物性の紙なのです。

(所長 川上明孝)

*写真は、『世界の金箔総合調査』(金沢美術工芸大学美術工芸研究所2000年)より転載

金沢市立安江金箔工芸館

〒920-0831 石川県金沢市東山1丁目3-10

開館:午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

電話:076-251-8950



※当館には駐車スペースがございませんので、公共交通機関をご利用ください。

金箔を知らずして金沢は語れません。身近にありながらも意外と知られていない金箔のあんなことこんなこと。問題に答えて、プレゼントをゲット!

問1 箔打機は通常1分間で()回上下運動させて箔を打つ。

1. 300 2. 500
3. 700 4. 1000

問2 箔打ち後、箔を打紙から広物帳に移す作業で左手の人差し指につける道具は()爪である。

1. 猫 2. 天狗
3. 鷹 4. 深

問3 織田一族が独占していた()を、豊臣秀吉が使用し後継者であることを知らしめた。

1. 金箔茶室 2. 金箔屏風
3. 金箔ちよんまげ 4. 金箔瓦

問4 金箔は反射光では黄金色に、光に透かして見ると()色に見える。

1. 青緑 2. 赤
3. 茶 4. 黄

問5 金箔は紀元前()年頃にエジプトで製造が始まったと考えられている。

1. 350 2. 1200
3. 3500 4. 5400

問6 金沢市立安江金箔工芸館内の金箔ドームには約()枚の金箔が貼られている。

1. 600 2. 1800
3. 3000 4. 4800

第六回 金箔《上級②》検定の解答は弊所ホームページにて2017年10月初旬に掲載いたします。

郵便はがき

9 2 0 0 8 3 1

切手をお貼りください。

石川県金沢市東山1-3-10
金沢市立安江金箔工芸館3F

金沢箔技術振興研究所
金箔検定 (vol.16) 係行

素敵な 金沢市立安江金箔工芸館
金箔商品・入館招待券をプレゼント

上記の金箔検定の解答と下記のアンケートを、左記のハガキにご記入の上、ご応募ください。正解率の高い方から10名様に素敵な金箔商品を(同点の場合は抽選)、他の方には金沢市立安江金箔工芸館入館招待券2枚をもちまわります。

応募締切：2017年9月末日(消印有効)
※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

§ アンケート §

アンケートにご協力をお願いします。お寄せ頂きました結果をもとに紙面作成を行って参ります。ご回答は左記のハガキにご記入の上、郵送または下記番号へFAXしてください。

- Q1** ご年齢は?
1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代以上
- Q2** きんぱーくをどこで手に入れましたか?
1. 図書館 2. 文化施設 3. 市や町の出先機関 4. その他
- Q3** 今号のテーマ「金沢市立安江金箔工芸館」はいかがでしたか?
1. 良かった 2. まあまあ良かった 3. 普通 4. つまらない
- Q4** 金箔に関する事で取り上げて欲しいことがありましたらお書きください。

FAX送信先：076-225-8942 金沢箔技術振興研究所

FAX番号はお間違えないようお送りください。

第六回 金箔《上級②》検定解答欄

解答欄	問1	問2	問3	問4	問5	問6

アンケート回答欄	Q1	Q2	Q3	
Q4				

商品発送先 住所 〒
お名前
お電話

※プライバシー情報は、商品の発送のみに使用します。

金沢箔技術振興研究所

News Letter きんぱーく

News Letter きんぱーく Vol.16

発行日/2017年4月1日

発行/金沢箔技術振興研究所

〒920-0831 石川県金沢市東山1-3-10

金沢市立安江金箔工芸館3F

tel. 076-225-8941 fax. 076-225-8942

e-mail kanazawa-haku@wind.ocn.ne.jp

金沢箔技研

検索

ホームページ
http://www.kanazawahaku-giken.jp

